

令和 6 年度上半期 経営報告会

令和6年11月14日



目次

令和6年度上半期の業績（2024年4月～9月）

1-1 預金積金の残高	3	4-1 有価証券の運用状況	10
1-2 預金積金の内訳	4	4-2 有価証券の評価損益	11
2-1 貸出金の残高	5	5-1 純資産の状況	12
2-2 貸出金の内訳	6	5-2 自己資本の状況	13
3-1 損益の状況	7	5-3 不良債権の状況	14
3-2 損益の増減要因	8	6-1 2024年度計画の進捗状況	15
3-3 増減要因(詳細)	9		

当金庫が目指すべき姿

ビジョン2030 ...	17	第11次中期経営計画（3カ年） ...	18
--------------	----	---------------------	----

対処すべき課題への取組状況

課題1.「永遠のファンを増やす」への取組状況	20
課題2.「笑顔の組織をつくる」への取組状況	24
課題3.「金庫の価値を高める」への取組状況	27
バンク駐在員事務所10周年	30
コンプライアンス・リスク管理態勢の更なる強化	31

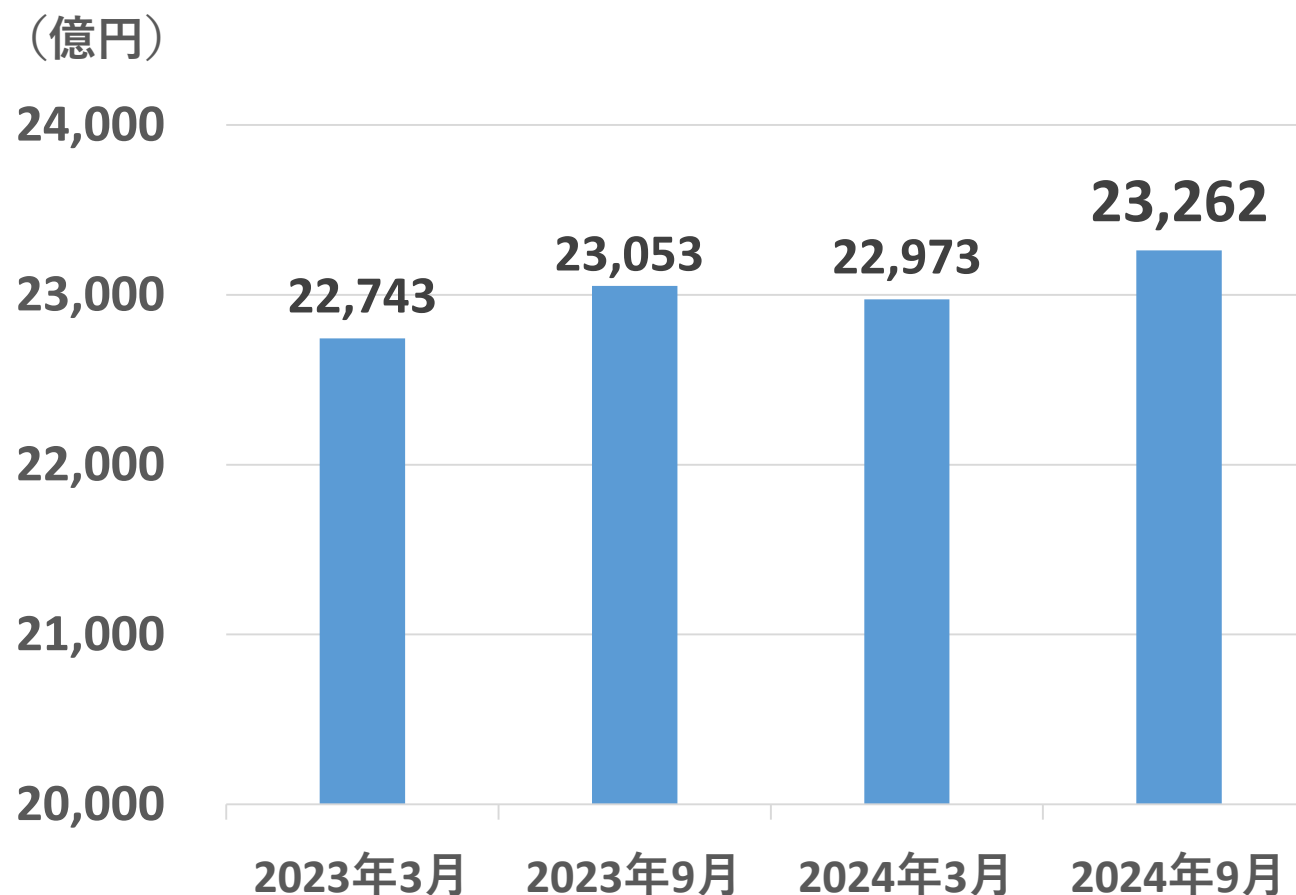
本資料に記載の計数は、単位未満を切り捨てて表示しております。
なお、合計等は原数値で計算してから切り捨てて表示しておりますので、表上の合計が一致しない場合があります。

令和 6 年度上半期の業績

(2 0 2 4 年 4 月 ~ 9 月)

1-1 預金積金の残高

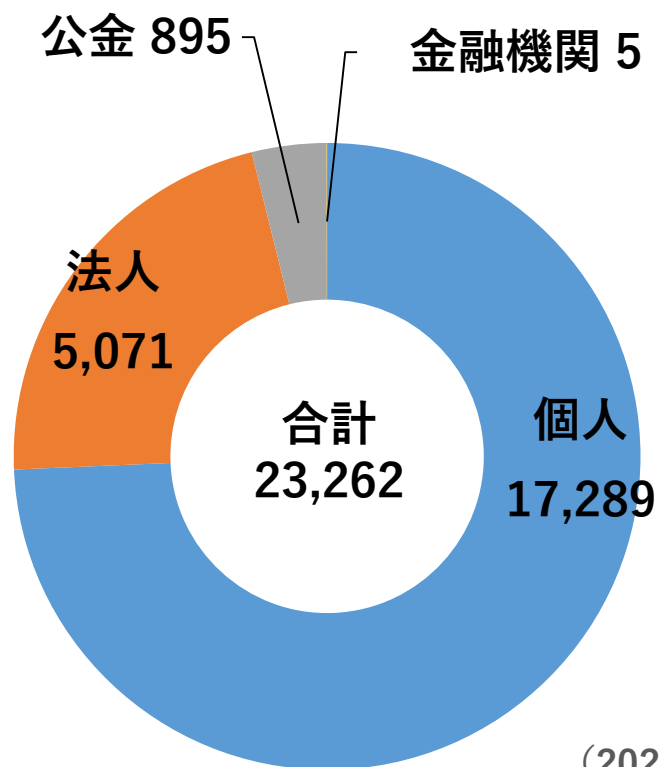
- 預金積金残高は2兆3,262億円、前期末比288億円増加
- 定期預金や普通預金などが増加



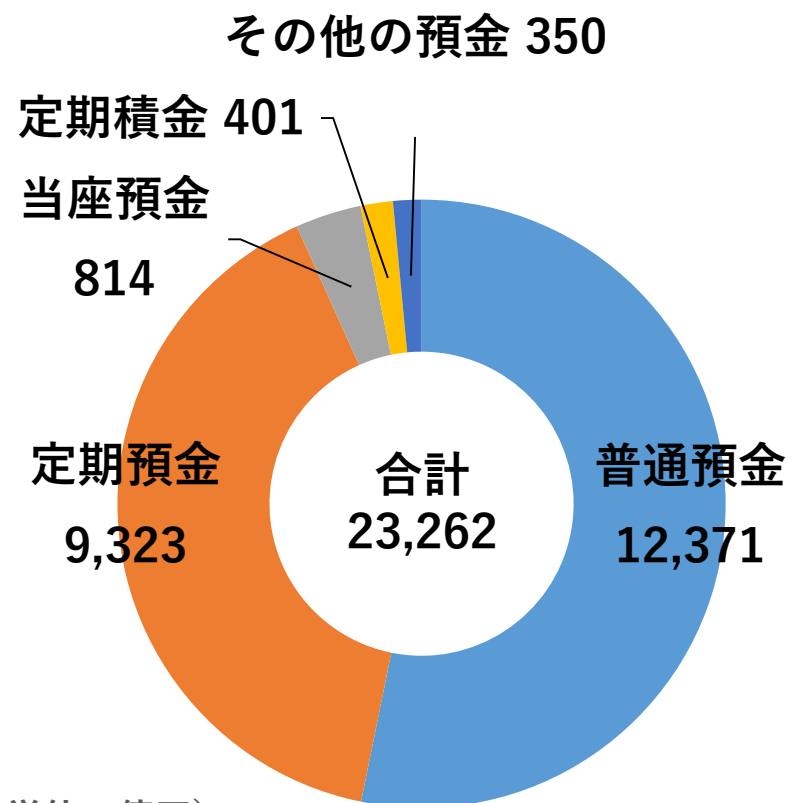
1-2 預金積金の内訳

- 個人のお客さまからの預金積金が全体の74.3%
- 科目別では、普通預金が全体の53.1%

預金者別預金積金残高



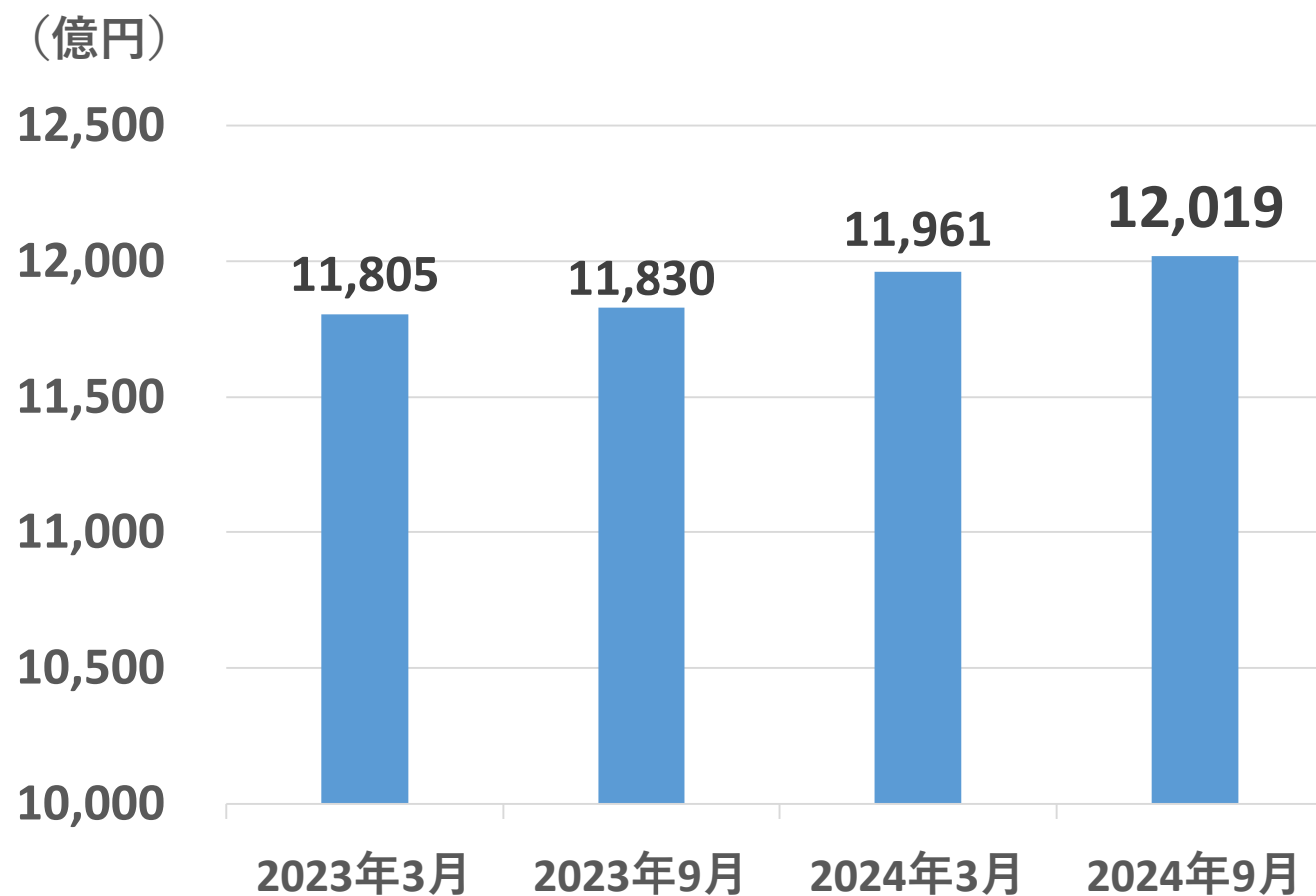
科目別預金積金残高



(2024年9月末、単位：億円)

2-1 貸出金の残高

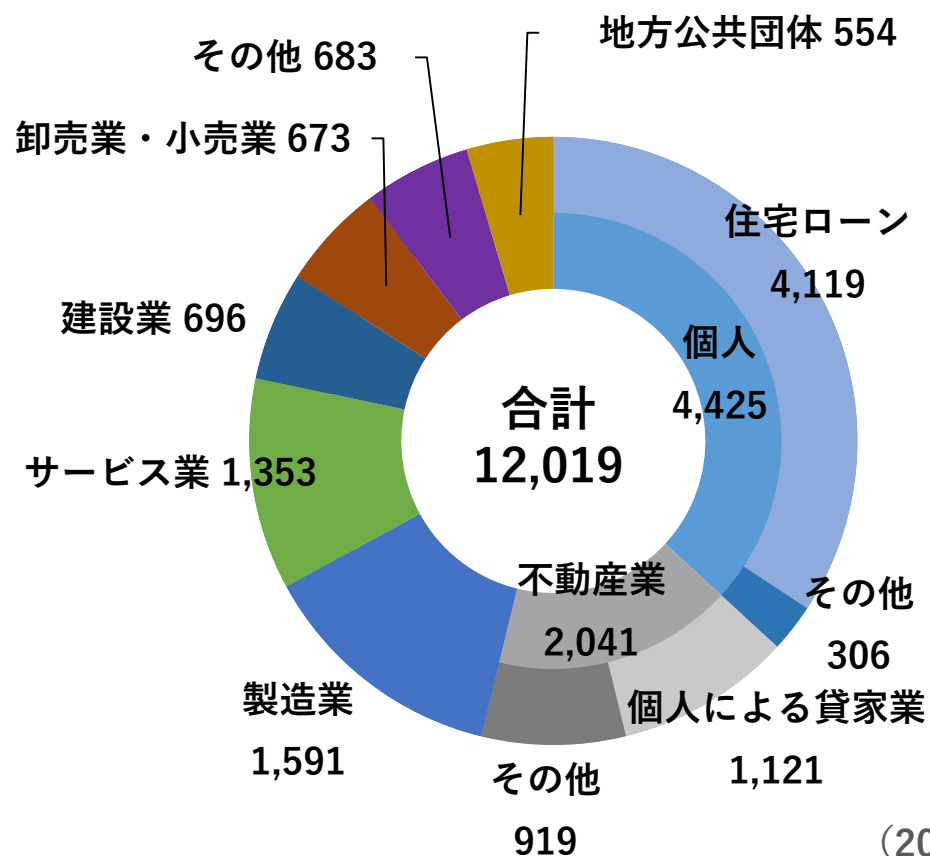
- 貸出金残高は1兆2,019億円、前期末比57億円増加
- 住宅ローンなど個人向け貸出を中心に増加



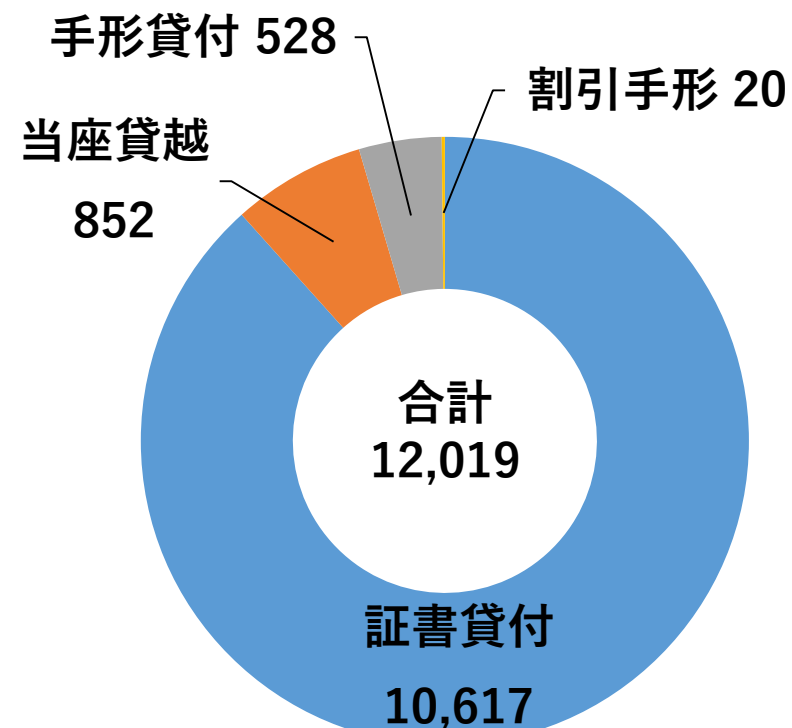
2-2 貸出金の内訳

- 特定の業種に偏ることなく、幅広い業種の資金需要に対応
- 事業者向けの貸出金が全体の58.5%、個人向け貸出金が全体の36.8%

業種別貸出金残高



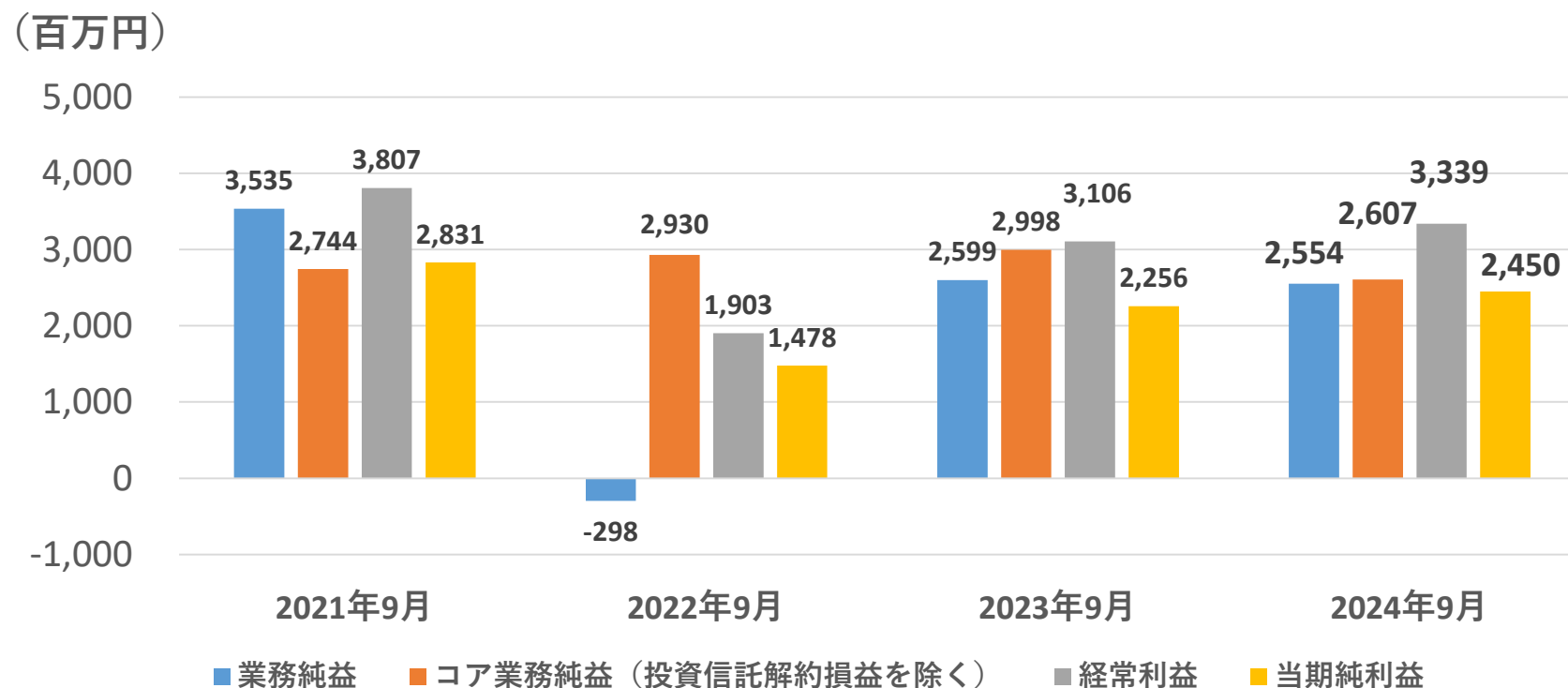
科目別貸出金残高



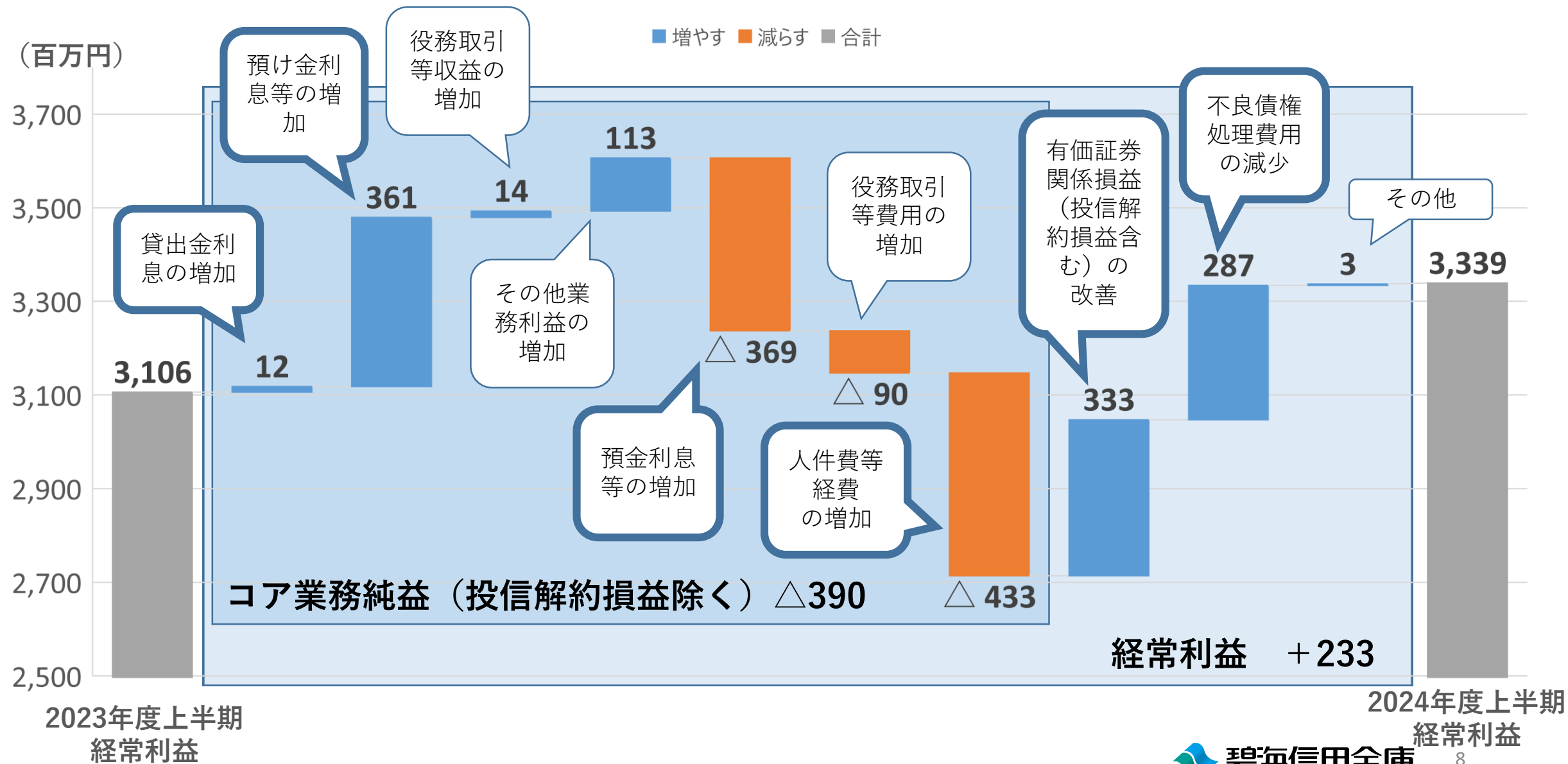
(2024年9月末、単位：億円)

3-1 損益の状況

- 業務純益・・・25億54百万円（前年同期比 △44百万円）
- コア業務純益（投資信託解約損益を除く）
・・・26億7百万円（前年同期比 △3億90百万円）
- 経常利益・・・33億39百万円（前年同期比 +2億33百万円）
- 当期純利益・・・24億50百万円（前年同期比 +1億94百万円）



3-2 損益の増減要因



3-3 増減要因(詳細)

(単位：百万円)

	2023年度 上半期	2024年度 上半期	増 減
業務粗利益	10,010	10,399	388
資金利益	9,057	9,402	344
役務取引等利益	885	809	△75
その他業務利益	67	187	119
国債等債券関係損益	37	43	6
経費	7,410	7,844	433
人件費	4,797	5,084	287
物件費	2,289	2,405	116
一般貸倒引当金繰入額	—	—	—
業務純益(※1)	2,599	2,554	△44
臨時損益	507	785	278
不良債権処理損益	△50	250	300
株式等関係損益	473	523	50
経常利益	3,106	3,339	233
特別損益	△3	△0	2
当期純利益	2,256	2,450	194

実質業務純益(※2)	2,599	2,554	△44
コア業務純益(※3)	2,562	2,510	△51
コア業務純益 (投資信託解約損益を除く)	2,998	2,607	△390

(単位：百万円)

(資金利益の内訳)	2023年度 上半期	2024年度 上半期	増 減
資金運用収益	9,246	9,960	713
貸出金利息	5,350	5,363	12
預け金利息	490	986	496
有価証券利息配当金	3,183	3,366	183
(除く投信解約損益)	3,619	3,463	△156
(投信解約損益)	△436	△96	339
資金調達費用	189	559	369
預金利息	186	555	368

国内金利上昇により、貸出金利息・預け金利息は増加しましたが、預金金利引き上げによる預金利息の増加や、ベースアップの実施による人件費の増加などにより、コア業務純益（投資信託解約損益除く）は前年同期比3億円減少いたしました。

一方で、有価証券関係損益の改善や不良債権処理費用の減少などにより、経常利益は前年同期比2億円増加の33億円となりました。

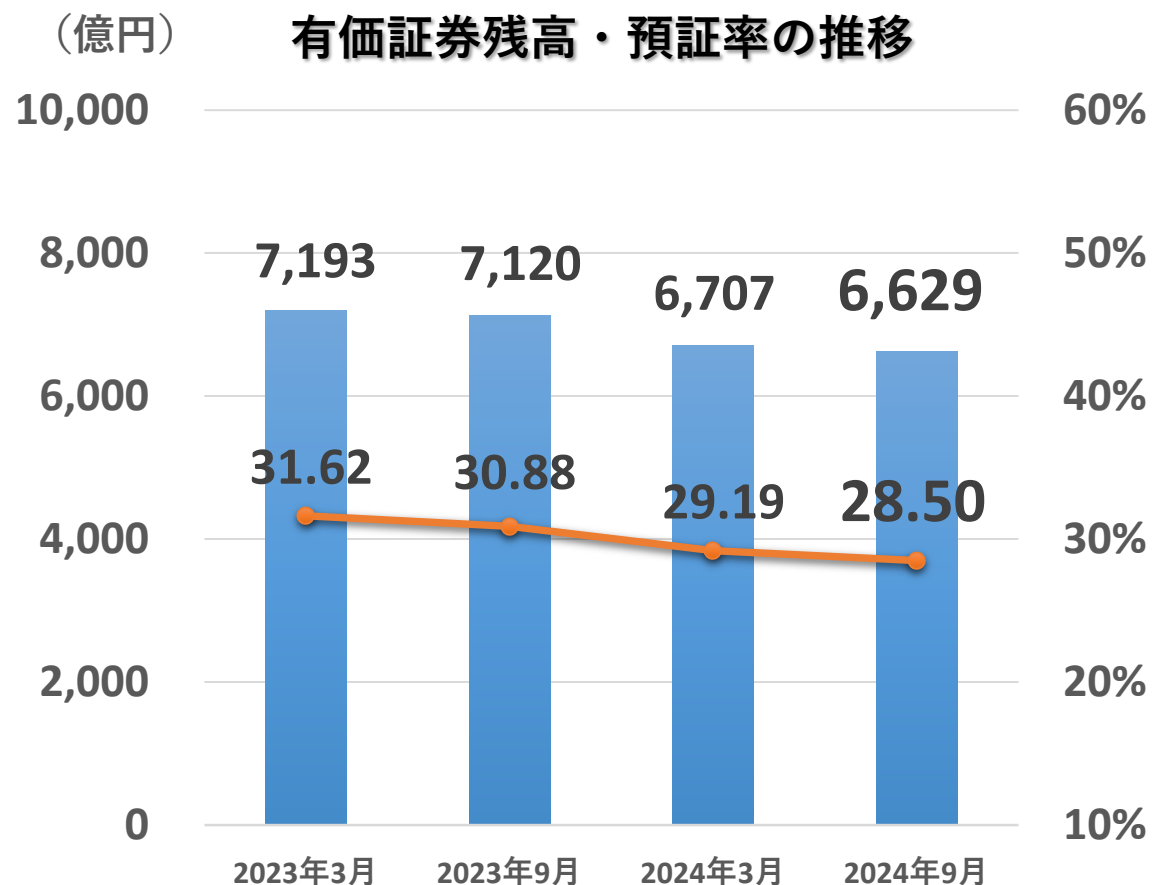
※1 業務純益とは、金庫の基本的業務に係る利益です。

※2 実質業務純益とは、業務純益から、一般貸倒引当金繰入額の影響を除いたものです。

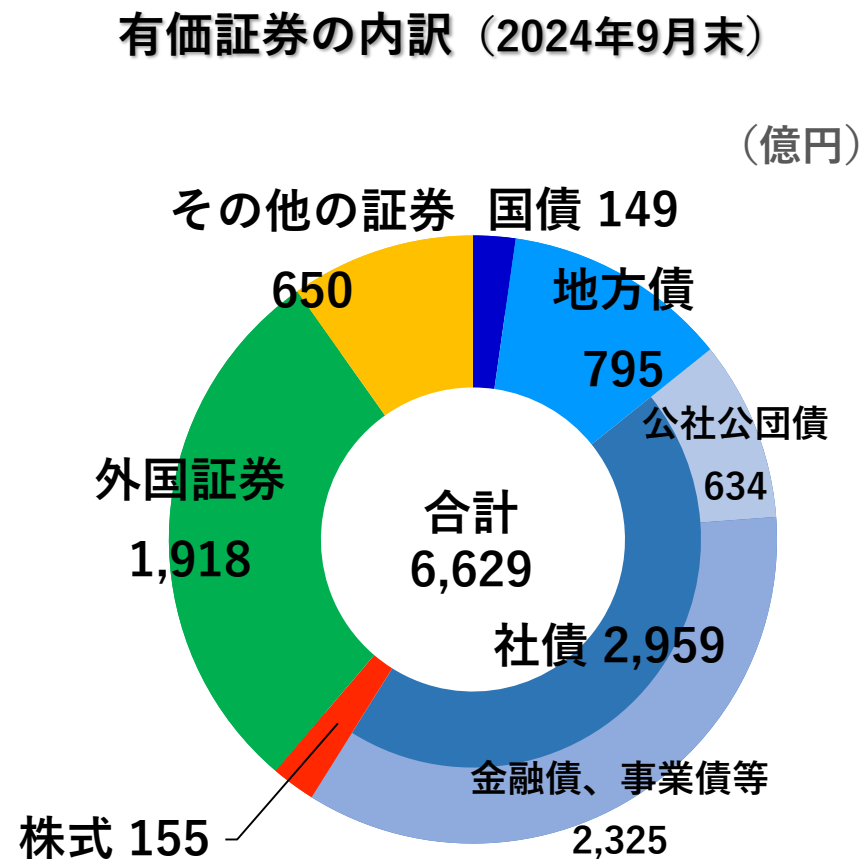
※3 コア業務純益とは、業務純益から、一時的な変動要因（一般貸倒引当金繰入額および国債等債券関係損益）を除いたものです。

4-1 有価証券の運用状況

- 有価証券残高は6,629億円、前期末比78億円減少 預証率は28.50%
- 国内金利の上昇など金融市場の大きな変動を踏まえ、リスクを抑制



※預証率 = 有価証券残高 ÷ 預金積金残高



4-2 有価証券の評価損益

- 有価証券の評価損益は△305億円
- 国内金利の上昇などにより、債券中心に評価損が前期末比37億円拡大
- 保有債券は国債、地方債、格付の高い社債・外国債券
- 内部留保により蓄積された利益剰余金（1,896億円）で吸収できる水準

有価証券の評価損益

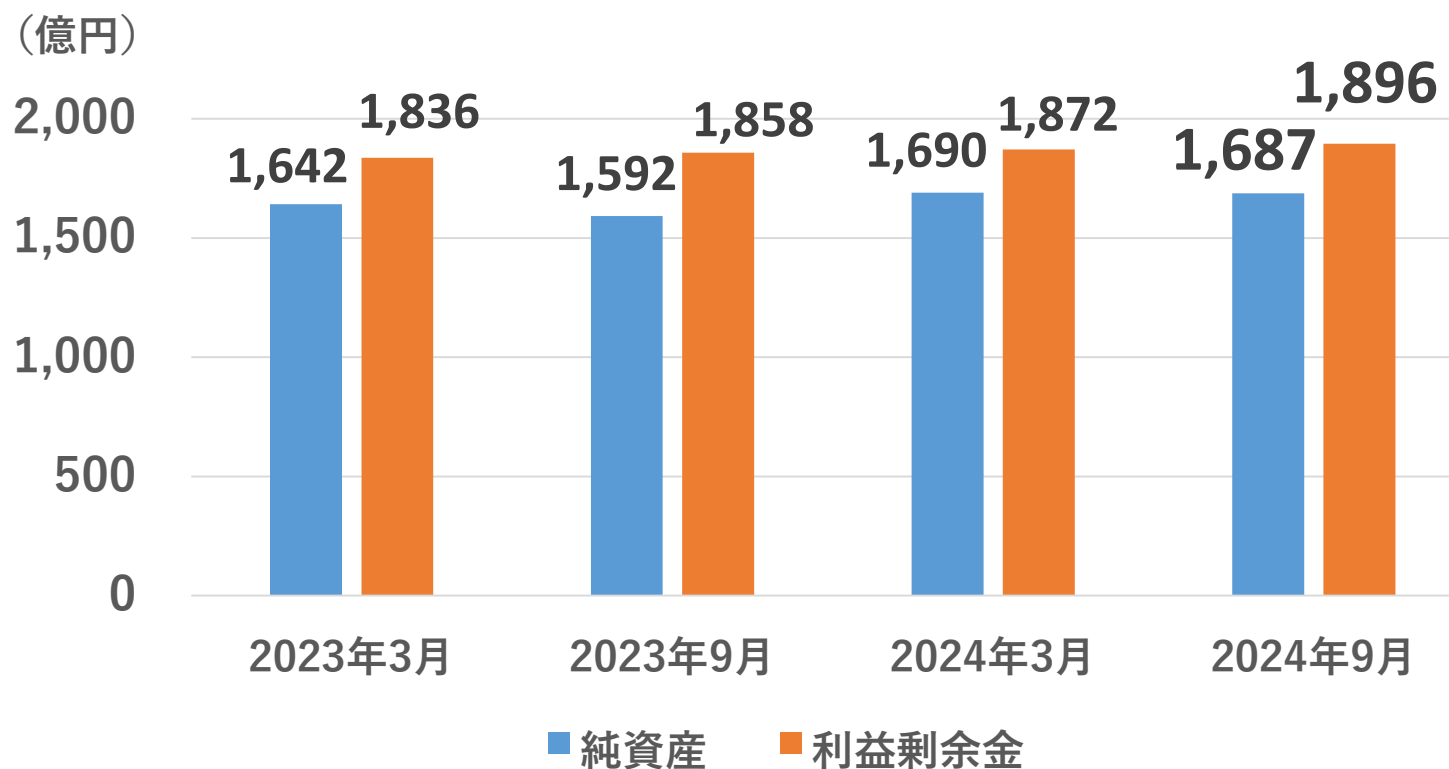
(億円)

	2024年3月末	2024年9月末	増 減
有価証券 計	△267	△305	△37
株 式	45	36	△9
債 券	△249	△286	△37
その他	△64	△55	+ 8

※その他は、投資信託等

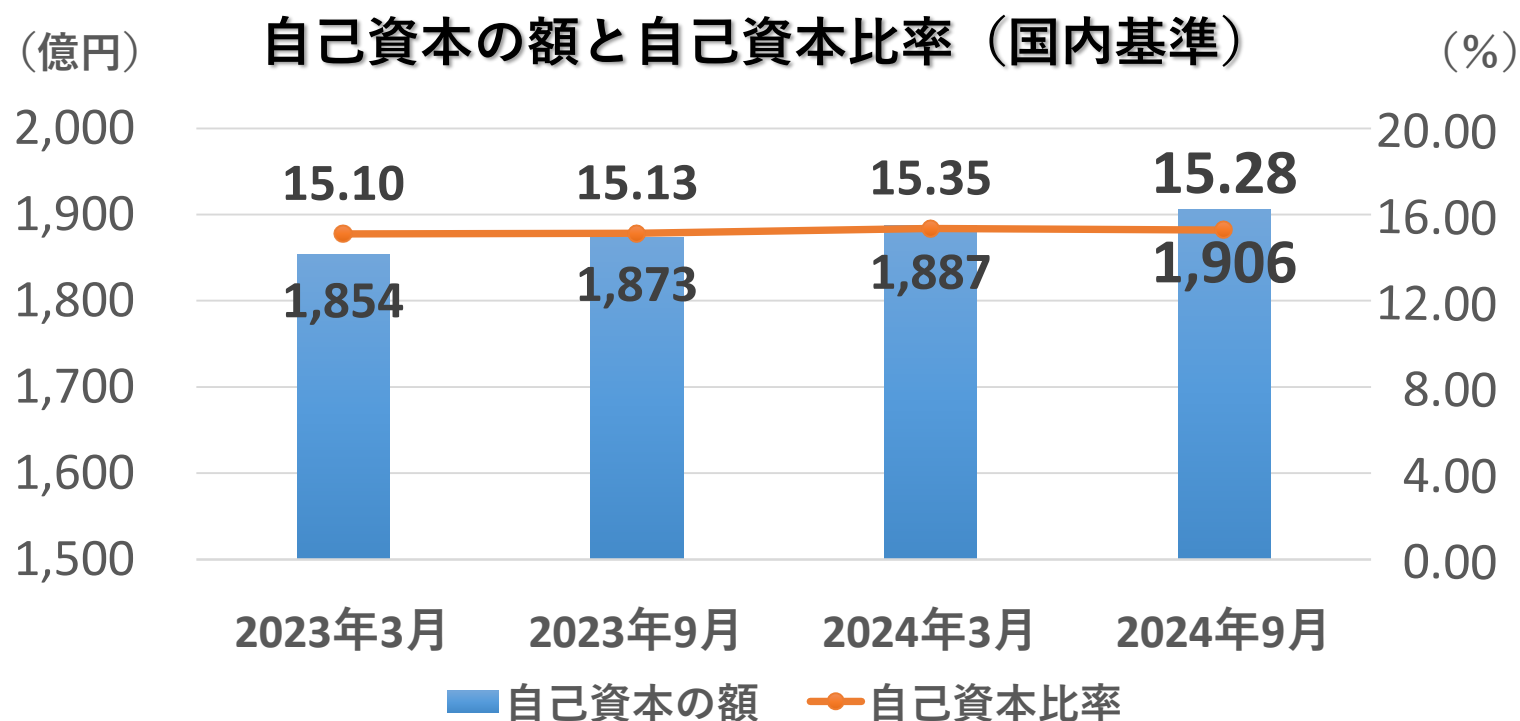
5-1 純資産の状況

- 純資産は、前期末比3億円減少の1,687億円
- 利益剰余金は、前期末比24億円増加の1,896億円
- その他有価証券評価差額金の減少により純資産は減少したが、利益の積上げにより利益剰余金は増加
- 内部留保により蓄積された利益剰余金の額が多く、純資産の質が高いことが特長



5-2 自己資本の状況

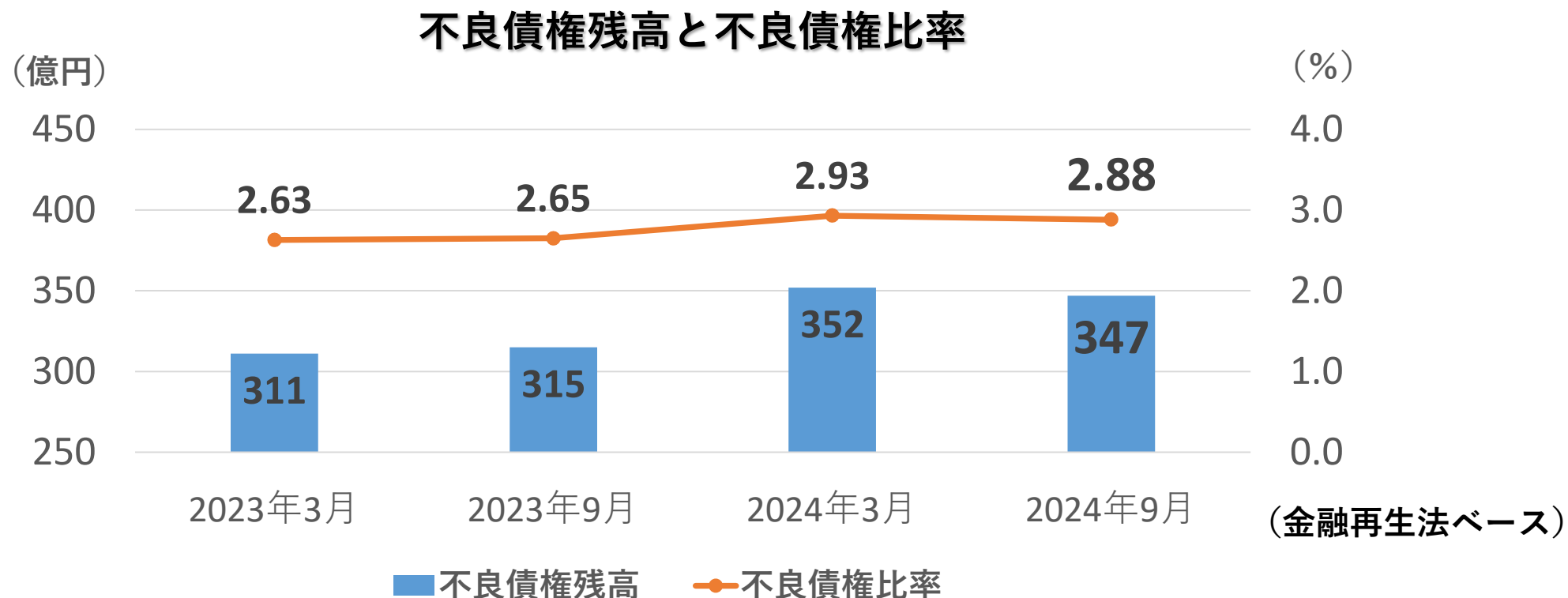
- 自己資本の額は、利益計上により増加し、前期末比18億円増加の1,906億円
- 自己資本比率は、前期末比0.07ポイント低下し、15.28%



$$\text{自己資本比率(\%)} = (\text{自己資本額} \div \text{リスクアセット}) \times 100$$

5-3 不良債権の状況

- 不良債権残高は347億円、不良債権比率は前期末比0.05ポイント低下の2.88%
- 不良債権の90.3%を担保や保証、貸倒引当金でカバー



※ 当金庫は債務者に対する債権のうち、回収可能性がないと判断した部分について、直接貸借対照表から減額する部分直接償却を実施しています。
※ 不良債権比率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

6-1 2024年度計画の進捗状況

□ 第11次中期経営計画（3カ年計画）の初年度

指 標	項 目	2024年度 計画	上半期 実績	進捗率 (%)
規 模	預金残高（期中平均残高）	23,200億円	22,978億円	99.04
	貸出金残高（期中平均残高）	12,000億円	11,906億円	99.21
収益性	お客さま向けサービス業務粗利益（※）	12,000百万円	5,884百万円	49.03
	コア業務純益 （投資信託解約損益を除く）	5,000百万円	2,607百万円	52.14
生産性	コアOHR （投資信託解約損益、減価償却費、預金保険料を除く）	68.80%以下	68.67%	—

（※）お客さま向けサービス業務粗利益＝貸出金利息－預金利息×預貸率＋役務取引等利益

当金庫が目指すべき姿

ビジョン2030

- 2030年度に創立80周年を迎えるにあたり、長期的に目指すべきありたい姿として、新長期ビジョン「ビジョン2030」を策定しました

創立80周年に向けて全役職員で共有する金庫のミッション・ビジョン・バリュー

ミッション

使 命

基本方針

中小企業並びに国民大衆の
地域金融機関として
地域経済振興のため貢献する。

ビジョン

ありたい姿

長期ビジョン

<ビジョン2030>
すまいるプロデュース Only One Bank
～笑顔あふれる地域をめざして、私達は走り続けます～

バリュー

行動指針

大切にする価値観

「挑戦と成長」 「自律自走」
「お客さま本位」 「公明正大」

第1 1次中期経営計画（3カ年）

- 「第1 1次中期経営計画」の3カ年は、「ビジョン2030」の実現に向け
強固な土台をつくる期間と位置づけ、各種課題に取り組んでおります

第1 1次中期経営計画（2024年4月1日～2027年3月31日）

3つの基本戦略	<戦略1> 永遠のファンを増やす ～地域支援力の更なる強化～
	<戦略2> 笑顔の組織をつくる ～お客さま、職員満足度向上に向けた 庫内環境づくり～
	<戦略3> 金庫の価値を高める ～持続的成長を実現する基盤の構築～
戦略の土台	コンプライアンス・リスク管理態勢の更なる強化
横断的な取り組み	D X ・ G X への取り組み

対処すべき課題への取組状況

<課題 1> 永遠のファンを増やす
～地域支援力の更なる強化～

<課題 2> 笑顔の組織をつくる
～お客さま、職員満足度向上に向けた
庫内環境づくり～

<課題 3> 金庫の価値を高める
～持続的成長を実現する基盤の構築～

<課題1>

永遠のファンを増やす

～地域支援力の更なる強化～
への取組状況

永遠のファンを増やす

～ 地域支援力の更なる強化 ～

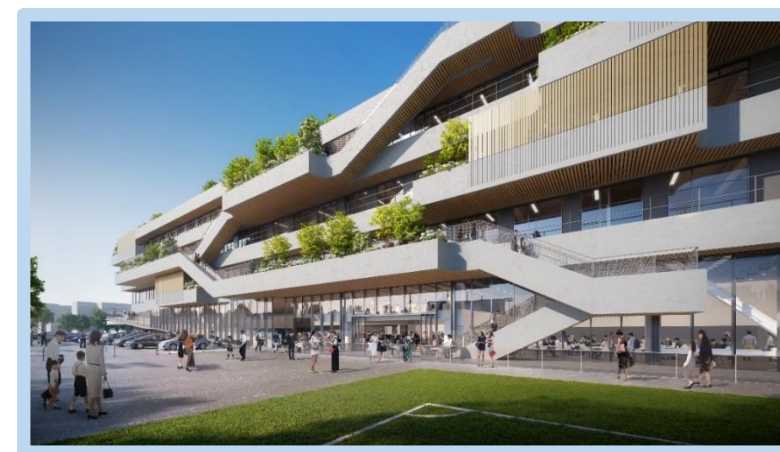
●地域の特性を捉えたお客さま支援

< 中小企業とスタートアップとの共創 >

■刈谷市、刈谷商工会議所と
「刈谷イノベーション推進プラットフォーム」を設立

■STATION Ai にパートナー企業（会員）として入居

中小企業とスタートアップとの共創を通じ、
地域のお客さまの新たなビジネス展開を
支援してまいります



STATION Ai イメージ（10月31日グランドオープン）

永遠のファンを増やす

～ 地域支援力の更なる強化 ～

●課題解決を起点としたコンサルティングサービスの強化

<お客さまのデジタル化を支援>

■デジタル分野におけるコンサルティング支援を開始

■内閣府の地域デジタル化支援促進事業に係る
間接補助事業者として採択

<お客さまのカーボンニュートラル対応を支援>

■経済産業省「省エネ・地域パートナーシップ」へ
パートナー金融機関として参加

引き続きDX・GX（グリーン転換）に関する
お客さまの課題解決を支援してまいります

デジタル化支援	2024年9月末実績
相 談	176件
成 約	44件
うちコンサル契約	11件



永遠のファンを増やす

～ 地域支援力の更なる強化 ～

●デジタルサービスを通じた利便性向上、 Face to Faceとデジタルの融合による営業活動



スマート通帳（イメージ）

■信用保証協会へのWEB申込システムの取扱開始

～信用金庫としては全国で初めてAPI連携するシステムを構築～

■へきしんアプリの機能向上

- ・新機能「スマート通帳」「スマート定期預金」の取扱開始
- ・「へきしんアプリ」リニューアル（2024年11月20日予定）

デジタルの活用による更なる利便性向上と、
Face to Faceとデジタルの融合に努めてまいります。

サービスをアイコン化し、並び替え機能を実装

お客さま一人ひとりのニーズに合わせたおすすめ情報機能を実装（2025.3予定）

取引履歴をトップ画面に表示



（イメージ）

<課題 2>

笑顔の組織をつくる

～お客さま、職員満足度向上に
向けた庫内環境づくり～
への取組状況

笑顔の組織をつくる

～ お客さま、職員満足度向上に向けた庫内環境づくり ～

●職員一人ひとりの能力が 最大限発揮できる組織体制・業務運営の改革

- ステップアップ制度の運用開始
- 新入職員の即戦力化に向けた研修の充実
- 職員間のコミュニケーション活性化機会の提供

●営業店への権限委譲を通じた 自律型の業務運営体制の構築

- 店舗運営方針を軸とした目標設定・管理の定着



研修風景



笑顔の組織をつくる

～ お客さま、職員満足度向上に向けた庫内環境づくり ～

● パーソナル店舗、店舗内店舗等を活用した店舗網の最適化

■ 刈谷南支店・小垣江支店を新築移転（店舗内店舗化）

■ 刈谷幸町支店を刈谷支店内へ移転（店舗内店舗化）

■ お客さまニーズを踏まえたATM網の見直し
（店舗外ATMコーナー：刈谷半城土出張所を新設）



刈谷南支店・小垣江支店

お客さま・職員の満足度向上に向け
庫内環境の整備・充実に努めてまいります

< 課題 3 >

金庫の価値を高める

～持続的成長を実現する基盤の構築～
への取組状況

金庫の価値を高める

～ 持続的成長を実現する基盤の構築 ～

●業務の集中化、デジタル化、シンプル化等による効率経営の実践

■バックオフィスセンター（BOC）の開設準備

■「相続センター」の開設準備（2025年1月開設予定）

営業店をお客さまとの
「コミュニケーション」の場へ

<参考> D X 戦略の進捗（KPI）

D X 戦略の進捗を総合的に計るモノサシとして、以下4つのK P I を設定

- ① デジタルユーザー数 （へきしんアプリダウンロード数、スマート管理Biz利用先数など）
- ② お客さまとのコミュニケーション量 （有効面談数、アプリ取引量、メルマガ開封数など）
- ③ 3レス推進による事務削減時間 （印鑑レス／キャッシュレス／ペーパーレス、RPAなど）
- ④ デジタル人材数 （I T系資格取得および所定の通信教育の受講を満たした職員数）

👉 各K P I の詳細については、ホームページにて公表

金庫の価値を高める

～ 持続的成長を実現する基盤の構築 ～

●持続的成長に向けた経営資源の適正配分

■サステナブルファイナンスの目標と実績

実行目標：2030年度までに1,500億円

■サステナブルファイナンス商品の企画

- ・「へきしんSDGs地方創生ローン」の取り扱い

●長期・安定的な収益基盤の構築

■「金利のある世界」への対応

■有価証券運用のリスクコントロールの実施

	累計実行額 (2024年9月末実績)
サステナブルファイナンス	45,092百万円
うち環境分野	18,024百万円

更なる効率経営の実践に努め、
持続的成長に向けた経営資源の
適正配分と長期・安定的な収益
基盤の構築に努めてまいります



バンコク駐在員事務所 10周年（2024年7月2日）

バンコクにて記念式典を開催（2024年7月4日）



深谷理事長の挨拶



< 式典概要 >

- ・ 場 所：アテネホテル最上階 ピーマンサイアムホール
- ・ 出席者：総勢 80 名（役職員 9 名を含む）



大鷹タイ日本大使館特命全権大使より御祝辞

今後もタイと日本、アセアン地域の未来に向け、
お客さまのお役に立てるよう取り組んでまいります

コンプライアンス・リスク管理態勢の更なる強化

＜第1 1次中期経営計画（3カ年）の主な取組内容＞

- コンプライアンス・プログラムの実践を通じた態勢強化
（不祥事防止、ハラスメント防止に向けた取り組み など）
- 内部監査の高度化、リスクベース監査の深化による
「経営監査」移行への態勢強化
- マネロン等管理態勢の強化
- サイバーセキュリティ対策の強化

お客さまに安心してご利用いただける金庫を目指し、
取り組んでまいります

本日は、経営報告会にご参加いただき、誠にありがとうございました。
本日の説明内容に関するご照会等がございましたら、下記までお願いいたします。

【お問い合わせ先】

碧海信用金庫
経営企画部 企画グループ
TEL 0566-77-8102

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
将来の業績は、経営環境の変化などにより、変動する可能性があることにご留意ください。
また、本資料に掲載されております計数につきましては、会計監査人の監査を受けておりません。